

文 献

地質調査所の歴史に関連する主な文献を時代順に配列した。

- 井上禧之助 (1907) 地質調査所沿革及事業. 地質調査所報告, no. 3, p. 1-120.
- 東京地質学会創立25年記念展覧会目録 (1918)
- 加藤省三編 (1930) 東京地学協会沿革誌. 35 p.
- 日本鉱業会編 (1939) 日本鉱業会の五十年. 53 p.
- 日本地質学会編 (1953) 日本地質学会史—日本地質学会60周年記念—. 185 p.
- 山根新次・三土知芳 (1954) わが国の地質調査事業の沿革. 地学雑誌, vol. 63, p. 151~165.
- 商工行政史刊行会編 (1954) 商工行政史 上巻. 645 p.
- 商工行政史刊行会編 (1955) 商工行政史 下巻. 666 p.
- 久松将四郎 (1956) 地質調査のための測定の歴史 (その1, その2). 地学雑誌, vol. 65, p. 89-99, p. 132-139.
- 江原眞伍 (1960) 日本に於けるナウマン博士. 立命館文学, no. 185, p. 1193-1204.
- 荒川秀俊 (1961) ドクトル・ノーマン氏地質測量意見書訳. 地学雑誌, no. 721, p. 70-76.
- 地質調査所八〇周年記念出版物編集委員会編 (1962) 懐古録. 地質調査所八〇周年記念協賛会, 276 p.
- 地質調査所八〇周年記念出版物編集委員会編 (1962) 地質調査所略史. 地質調査所, 56 p.
- 今井 功 (1962) 地質図幅調査事業の歴史. 地質ニュース, no. 98, p. 4-14.
- 通商産業省編 (1962) 商工政策史 第3巻行政機構. 商工政策史刊行会, 520 p.
- 山根新次先生追憶集刊行会編 (1964) 山根新次先生追憶集. 220 p. +32 p.
- 今井 功 (1966) 黎明期の日本地質学. ラテイス, 193 p.
- 通商産業省編 (1967) 商工政策史 第22巻鉱業 (上). 商工政策史刊行会, 417 p.
- 日本地質学会編 (1968) 日本の地質学—日本地質学会75周年記念—. 610 p.
- 佐藤光之助 (1968) 地質調査事業の動向. 地質学雑誌, vol. 74, p. 554-557.
- 東京地学協会創立90周年記念出版物編集委員会編 (1969) 東京地学協会90年史. 地学雑誌, vol. 78, p. 83-234.
- 石田龍次郎 (1969) 東京地学協会編年誌稿. 地学雑誌, vol. 78, no. 3, p. 1-41.
- 国土地理院監修 (1970) 測量・地図百年史. 日本測量協会, 672 p.

- 橋本謙一 (1970) オスカー・コルシエルトの業績. 化学と工業, vol. 23, p. 539-543.
- 佐々木 享 (1970) 和田維四郎小伝 (上). 三井金属修史論叢, no. 4, p. 35-74.
- 佐々木 享 (1971) 和田維四郎小伝 (中) — 鉱業条例をめぐる —. 三井金属修史論叢, no. 5, p. 97-130.
- 佐々木 享 (1972) 和田維四郎小伝 (下). 三井金属修史論叢, p. 89-144.
- 佐野浚一 (1972) 発展途上国への技術協力の問題点. 地質ニュース, no. 220, p. 152-177.
- 河合正虎 (1972) 地質図幅事業の歴史と現状. 地質ニュース, no. 220, p. 2-37.
- 鈴木尉元ほか5名 (1972) 地質調査所における戦後の石油・天然ガス調査事業の歩みと今後の課題. 地質ニュース, no. 220, p. 91-101.
- 陶山淳治 (1972) 物理探査の発展と今後の動向. 地質ニュース, no. 220, p. 110-119.
- 今井 功 (1972) 年表 地質調査所90年史. 地質ニュース, no. 220, p. 185-210.
- 今井 功 (1972) 和田維四郎年譜. 地質ニュース, no. 213, p. 48-54.
- 原田準平 (1973) わが国鉱物学の開拓者和田維四郎氏の青少年時代. 地学研究, vol. 27, p. 254-263.
- 斉藤正次 (1973) 太平洋戦争時の南方地質調査始末記. 鈴木 醇先生記念出版会編: 鈴木 醇 — 人とその背景 —, p. 126-137.
- 日本経済新聞社文化事業部編 (1976) 高島北海展.
- 石山 洋 (1977) 明治科学の恩人たち (26) オスカー・コルシエルト. 科学技術文献サービス, no. 48, p. 35-39.
- 今井 功 (1977) 日本における地質学の発達. 国立科学博物館百年史, p. 668-682.
- 佐藤 悦・師橋辰夫 (1977~1981) 明治初期測量史試論—伊能忠敬から近代測量の確立まで—. 地図, vol. 15, no. 3, p. 1-13; vol. 16, no. 1, p. 34-40; vol. 17, no. 2, p. 25-33; vol. 18, no. 2, p. 34-44; no. 3, p. 11-17; vol. 19, no. 1, p. 31-42.
- 木村敏雄 (1978) 日本の地質学と小藤文次郎. 明治・大正の学者たち, 東京大学出版会, p. 131-157.
- 小林貞一 (1978) Geology and Mineral Resources of Japan, Third Edition, Volume One, 1977 と日本地質誌の歩み. 地学雑誌, vol. 87, p. 271-273.
- 友田清彦 (1978) わが国の草創期土性調査事業に関する考察. 農村研究, no. 47, p. 24-38.
- 土井正民 (1978) わが国の19世紀における近代地学思想の伝播とその萌芽. 広島大学地学研究報告, no. 21, p. 1-170.
- 小林貞一 (1979) 100万分の1日本地質図第2版と揺籃期の日本地質図史. 地学雑誌, vol. 88,

p. 264-271.

- 友田清彦 (1979) 来日前における M. フェスカの経歴と学問. 農村研究, no. 49, p. 19-33.
- 通商産業省編 (1979) 商工政策史 第13巻工業技術. 商工政策史刊行会, 687 p.
- 友田清彦 (1980) フェスカ来日前後の土性調査事業とその従事者たち. 農村研究, no. 50, p. 113-126.
- 鎌谷親善 (1980) 高山甚太郎と工業試験所. 化学技術研究所八十年史, p. 327-351.
- 安藤 厚 (1981) 地質調査所とぶんせき. ぶんせき, no. 4, p. 261-265.
- 今井 功・鎌谷親善 (1982) 創立期の地質調査所. 地質ニュース, no. 330, p. 6-15.
- 鎌谷親善 (1982) 工業試験所の起源—地質調査所の設立に至る過程—. 化学史研究, no. 2, p. 59-79.

参 考 資 料

- 地理局雑報 10号 明治11年
- 地理局雑報 11号 明治12年
- 内務卿第3～4回年報 明治10～11年
- 農商務卿第一回報告 明治14年
- 農商務卿第二回報告 明治15年
- 農商務卿第三回報告 明治16年
- 農商務卿第四回報告 明治17年
- 地質局事業十年間報告 明治23年
- 地質調査所事業成績第二回報告 明治29年
- 地質調査所事業成績第三回報告 明治37年
- 地質調査所事業成績第四回報告 明治40年
- 地質調査所事業報告—明治40年～昭和24年— (地質調査所報告に含まれる)
- 工業技術庁年報 昭和25年度～26年度
- 工業技術院年報 昭和27年度～55年度
- 内閣記録局編 (明治22年) 法規分類大全
- 公文録 (国立公文書館蔵)

あ と が き

昭和52年5月に設立された地質調査所創立100周年準備委員会が記念事業の1つとして100年史の作成を提案したのは、筑波移転前の53年5月のことである。その後、55年5月9日に開かれた第1回地質調査所100周年記念行事準備委員会の席で、57年秋完成を目標とした100年史の計画が検討され、55年10月の第2回委員会で100年史の構想の大枠が定まった。それは年表を中心とした小冊子的なものであった。

昭和56年7月1日、地質調査所百年史編集委員会が佐藤良昭委員長と7名の委員で正式に組織された。この席で百年史の構成や内容が固められた。以後、委員会は57年7月12日まで17回開かれている。年表に関しては、各委員が持ちよった項目別資料を取捨選択して粗稿を作り、一次稿、二次稿と改定を重ね、57年3月末に最終稿がほぼ完成した。この間、56年12月と57年3月の2回にわたり、国立公文書館所蔵の古資料の複写を行なっている。年表が完成した時点で本文の構成と時代区分が検討され、組織と業務の推移を中心とした6章の構成が定まった。

本文の執筆は主として今井委員により、4月から6月までの3カ月間に集中的に行なわれた。執筆された草稿は順次委員会で討議され、修正・加筆された。第6章までの検討が一通り終わったのは6月18日のことで、その後本文と年表との照合、写真や図・表の収集・整理にあたり、なお若干の作業を残したが7月12日に本文および年表を稿了した。委員会発足以来1年の短期間のため、内容について十分な討議が行なえず、掘り下げきれずに後に残した問題もあったが、あえて現時点でのとりまとめとした。不十分な点については、今後読者の方々からご意見やご指摘をいただき、これを参考にして将来の改訂に備えることにしたい。

本書を作成するにあたり、東洋大学の鎌谷親善教授からは創立期の地質調査所に関するいろいろとご教示を受け、かつ貴重な資料を提供していただいた。また地質調査所の多くの方々からは数知れぬご援助やご協力をいただいた。とくに写真の複写には正井義郎氏をわずらわし、国立公文書館の検索および複写手続きなどについては曾屋真紀子氏に担当していただいた。栗原添美氏には年表原稿の浄書をお願いした。これらの方々には厚く御礼申し上げる次第である。

昭和57年 7月

地質調査所百年史編集委員会

委員長 佐藤 良 昭

委員 安藤 厚

” 五十嵐 俊 雄

” 今 井 功

” 黒 田 和 男

” 駒 井 二 郎 (56. 11まで)

” 斎 藤 次 男

” 中 條 純 輔 (57. 4まで)

” 花 岡 尚 之 (57. 1から)

(五十音順)

昭和57年 9月20日発行

編 集 地質調査所百年史編集委員会

通商産業省工業技術院

発 行 地質調査所創立100周年記念協賛会

印 刷 小宮山印刷工業株式会社
